

# 丘珠縄文遺跡の調査

えっちごひやくはち

おかだまじょうもんいせき

H508 遺跡(通称「丘珠縄文遺跡」)は、札幌市東区丘珠町のサッポロさとらんど内に所在します。さとらんどの造成に先立ち、平成4・5年に実施した試掘調査で、縄文文化晩期(以下「縄文晩期」)の土器や石器が発見され、これまで現地の地下に保存されてきました。この遺跡を活用して、遺跡公園を整備する事業が、平成23年度に『第3次札幌新まちづくり計画』に位置付けられ、遺跡の内容を具体的に把握するために、平成25・26年度に、延べ371名に及び市民ボランティアの参加・協力のもと確認調査(部分的な発掘調査)を行いました。



丘珠縄文遺跡の位置

## 【確認調査期間】

平成25年6月24日～9月19日

平成26年6月23日～10月10日

## 【整理及び報告書作成期間】

平成25～27年度

## 【調査面積】(※トレンチ調査面積)

平成25年度：133㎡

平成26年度：109㎡

## 【市民ボランティア参加人数】

平成25年度：延べ168人

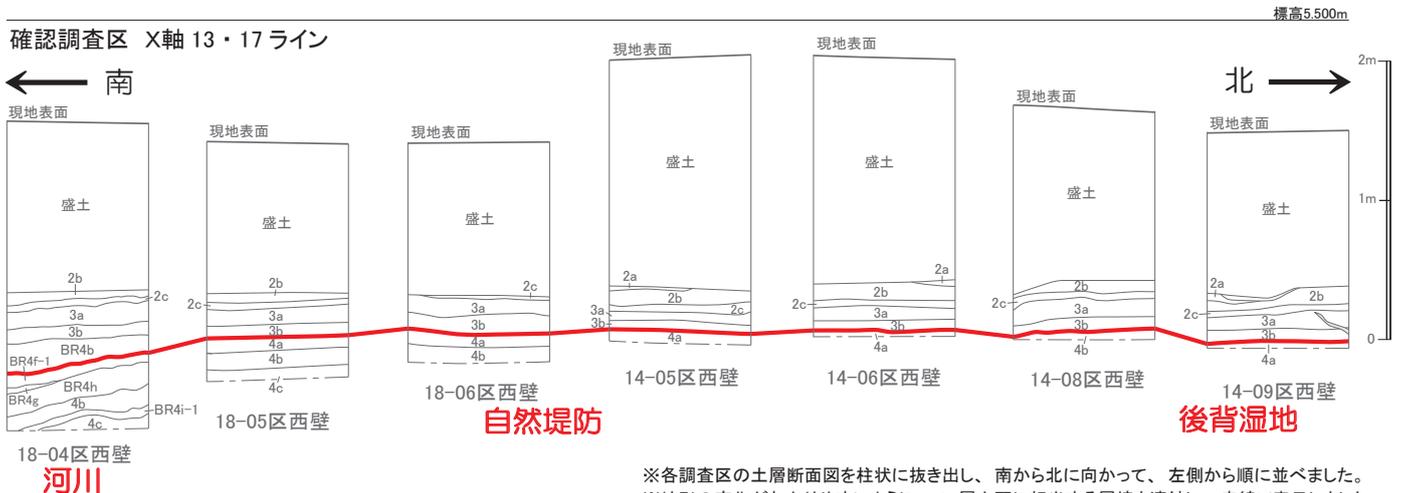
平成26年度：延べ203人

## さとらんどの遺跡

さとらんどでは、丘珠縄文遺跡の他に2カ所の遺跡が見つかっています。一つは、現在の「ミルクの郷」(サツラク農業協同組合牛乳工場)付近から見つかった擦文文化と続縄文文化の遺跡(H317遺跡)です。この遺跡からは、工場の建設に先立って平成4・5年に実施した発掘調査で、擦文文化の竪穴住居跡12軒や続縄文文化の炉跡93カ所が発見されました。もう一つは、現在の農業支援センターの圃場付近から見つかった続縄文文化の小規模な遺跡(H509遺跡)です。

## 遺跡の地形

丘珠縄文遺跡は、札幌市の北部に広がる沖積平野(石狩平野)と呼ばれる低地部に位置しています。確認調査では、遺跡の南東端で、河川の河道から河岸斜面に相当する、南方向に傾斜していく土層の堆積が確認され、縄文晩期頃の河川は、遺跡の南辺をかすめるように流れていたことがわかりました。確認された河川は、近接するH317遺跡の7層の調査で想定された続縄文文化初頭頃に流れていた河川と一連のものと考えられます。



※各調査区の土層断面図を柱状に抜き出し、南から北に向かって、左側から順に並べました。  
※地形の変化がわかりやすいように、4a層上面に相当する層境を連結し、赤線で表示しました。

## 丘珠縄文遺跡の地層と地形

左端の南に傾斜する地形が河川に、その右側の地形の高まりが自然堤防に、右端のやや低くなった地形が後背湿地に相当します。